

仕事の「やりがい」と「大変さ」から判断するシート

●以下は、それぞれの仕事で発生する「やりがい」と「大変さ」を表したものです。  
 すべての仕事の「大変さ」を比較して、自分が「これは絶対によくない」と感じた順に1から6と番号をふってください。  
 イメージにくい場合は、「高校生活に置き換えると」の欄を参考にして想像してみてください。  
 「向いている仕事」であったはずの仕事が、意外に「大変だ」と感じるかもしれません。

			大変さの いやな順位
A	仕事	会社でチームを組んで行う仕事(営業や企画など)、お店でものを売る仕事、外回りの営業など。	
	やりがい	大規模な仕事ができる、仕事の成果が明確になりやすい	
	大変さ	多くの人と調整が必要。営業や販売の仕事では人から断られる経験をするのも多い。	
	高校生活に置き換えると	(チームスポーツのクラブ活動や、クラス単位で行う体育祭や文化祭で、仲間と力を合わせて成果を出すこと) 自分の成績や行動が、チームやクラスの成果によくも悪くも反映されるプレッシャーがある。意見が対立した場合に、妥協を強いられたり、調整役、対外的な交渉役にさせられることがある。	
B	仕事	一般事務やパソコンの操作、経理事務、法律事務、銀行の業務一般など。	
	やりがい	規則性のある仕事なので一度やり方を覚えると手順が明快。	
	大変さ	自分ひとりの判断で仕事が進まない。誰かの指示によって動くことが多い。	
	高校生活に置き換えると	(ホームルームでの日直、生徒会やクラスの書記の仕事など) 決められた通りに行動しなければ、まわりに迷惑をかけた、批判されることがある。	
C	仕事	工場や工房でものを作る仕事、農業、乗り物の運転、調理なものを作り出すこと自体の喜び、運転や調理などは作業そのものが楽しみとなることも。	
	やりがい		
	大変さ	身体を使う仕事なので、肉体的な疲労度は高いことが多い。決まった時までには必ず終わらせなくてはいけないという納期がプレッシャーとなることもある。	
	高校生活に置き換えると	(技術・家庭科、化学などの実習授業、パソコン操作など) 器具などを正確に操作する必要があるため、緊張を強いられる。ときには危険をともなうこともある。決められた通りに完成させなければ評価されないことも。	

			大変さの いやな順位
D	仕事	研究所などでの研究、数学者や科学者、エンジニア、医療や医療関連の検査など。	
	やりがい	新しいことを調べたり、発明したりすることは創造的な喜びを感じる人が多い。	
	大変さ	成果を出せると必ずしも約束されているわけではないので、場合によっては仕事が徒労に終わることもある。	
	高校生活に置き換えると	(自由研究や総合的学習の時間での課題への取り組みなど) 未知の課題へ取り組むため、方法や道筋を誰も提示してくれない。終わりの見えない作業に不安を感じることもある。よい結果が出なければ誰も評価してくれない。	
E	仕事	芸術全般や出版、マスコミ関連など。	
	やりがい	自分の関わった仕事が多くの人に見たり読んだりしてもらえ、影響や感動を与える可能性がある。	
	大変さ	マスコミ関連は常に時間に追われることが宿命の仕事。芸術関連は経済的に不安定なこともある。また休みも決まっていない仕事が多い。	
	高校生活に置き換えると	(芸術科目や作文・小論文の授業など) 人の真似ではなく、自分だけの発想や意見でなければよい評価をされない。常に新しいことを考え続けなければならない。決められた短い時間に作品を作らなければならない。	
F	仕事	福祉や介護、保育、教育、カウンセリングなど。	
	やりがい	他人から感謝されることが多い。自分の特技や知識が他者のために役立つこと自体を幸福に感じる人も。	
	大変さ	人間と接する仕事なので、自分では自分の仕事の評価ができない。頑張ったつもりでも、相手によって不当な評価をされることもある。	
	高校生活に置き換えると	(委員会活動やボランティア活動など) 自分が苦手な人も相手にしなければならぬ。自分の善意が相手に伝わらずに冷たくされることも。	